

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

令和元年度

# 事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

## 令和元年度 事業報告

令和元年度におきましても、文化庁の文化芸術振興費補助金を得て、「明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌」6誌の貴重な資料の保存・公開のためのデジタル化事業、および科学研究費助成事業として2件の研究に引き続き取り組みました。

「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」との関係につきましても、専門員がいない運営がなされている現状について、当財団として懸念を抱くところではありますが、「国際児童文学館」が所期の目的であります、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できますよう、従前どおり大阪府および中央図書館と連携・協力を図るとともに、受託しております寄贈資料の受入れ業務に務めたところであります。

令和元年度決算につきましては、収入で前年度より約600万円の増、支出は約370万円の増となっております。収入増の要因としては、事業収入の外部団体委託金と受取補助金等（文化芸術振興費補助金）の増、加えまして、寄付金収入の増です。支出につきましては、前述の文化芸術振興費の増に伴うものが主な要因です。また、正味財産期末残高は前年度より484万余円の減少と、前年度決算時の716万余円と比較すると減少額が少なくなっております。依然厳しい収支状況ではありますが、安定的な運営ができるよう努力してまいります。

「公益目的支出計画」の進捗状況につきましては、計画の収支差額 約1160万円に対し、決算額は約750万円となりました。初年度（平成25年度）からの7期累計での達成率は57%（前年56%）になっています。公益目的支出額では、計画の約1970万円に対し決算額は約2730万円となり、7期累計の達成率でも計画額を上回る115%（前年111%）になっています。

個々の事業については、令和元年度事業報告3頁以降の〔公益事業の部〕、〔収益事業の部〕にもとづき以下に報告します。

## ○役員会等の開催状況

### 1. 評議員会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	1.5.8	(1) 評議員の選任について
第2回	1.6.18	(1) 理事の選任について (2) 評議員の選任について (3) 平成30年度収支決算について (4) 平成30年度事業報告について(報告) (5) 令和元年度補正予算について(報告)
第3回	2.3.25	(1) 令和2年度事業計画について(報告) (2) 令和2年度収支予算について(報告) (3) 令和元年度事業の執行状況について(報告)

### 2. 理事会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	1.4.26	(1) 評議員会の招集について
第2回	1.6.18	(1) 平成30年度事業報告について (2) 平成30年度収支決算について (3) 令和元年度補正予算について
第3回	1.6.18	(1) 理事長の選定について (2) 常務理事の選定について
第4回	2.3.25	(1) 令和2年度事業計画について (2) 令和2年度収支予算について (3) 令和元年度事業の執行状況について

## [ 公益事業の部 ]

---

### I 講座、講演会等を通した子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

#### 1. 大人向け講座・講演会

##### (1) 指導者養成のための講座

①子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：23回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：教員（1回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（8回）、司書・学校司書（10回）、その他（4回）

##### ②「気になる本を読む会」

「学校司書研究会」とともに、大阪府域の学校司書と毎月テーマを決めて読書会等を行う研究会を実施した。（11回）

##### (2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

##### ①連続講座

「目で見えるイギリス児童文学の歴史」の実施

- ・開催日：令和2年1月25日（土）  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止：令和2年2月22日（土）、3月15日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館 大会議室
- ・内容：実際の資料を紹介しながらイギリス児童文学史についての講義
- ・講師：三宅興子（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：59人
- \*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- \*子どもゆめ基金助成活動

##### ②国際講演会

「韓国の絵本作家パク ジョンチェの絵本を語る」の実施

- ・開催日：令和元年7月20日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館 大会議室
- ・内容：韓国の絵本作家パク ジョンチェの絵本作品について、作家および翻訳者が語った。
- ・講師：パク ジョンチェ（韓国の絵本作家）、広松由希子（絵本評論家）、申明浩（翻訳家）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：61人
- \*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

\* 賛助企業：サントリーホールディングス株式会社、  
株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート、  
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

\* 子どもゆめ基金助成活動

### ③講演会

「紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える」の実施

- ・ 開催日：令和元年 11 月 30 日（土）
- ・ 場 所：大阪府立中央図書館 大会議室
- ・ 内 容：紙芝居の歴史とメディアの特性についての講義を行った。
- ・ 講 師：浅岡靖央（児童文化研究者）
- ・ 対 象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・ 参加者：52 人
- \* 主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- \* 後 援：大阪府立中央図書館
- \* 子どもゆめ基金助成活動

- (3) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。 29 回  
子どもの本を楽しむ会（10 回）  
保護者・一般向き児童文学・絵本講座・フォーラム（10 回）  
第 15 回大阪こども「本の帯創作コンクール」  
第 29 回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）  
令和元年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）  
第 38 回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）  
大阪いずみ市民生活協同組合「コープのえほんでスマイル」専門委員会 他

## 2. 本と子どもを結ぶ活動

- (1) 学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計 7 件実施した。  
小学生（5 件）、ちっちゃなこどもびじゅつあー（国立国際美術館）  
日中韓子ども童話交流事業 2019（於：北京）
- (2) 児童養護施設でのおはなし会の実施  
大阪府域の児童養護施設でおはなし会（1 回）を開催した。  
※ 1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- (3) 図書館等でのおはなし会・人形劇の実施
- ①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会と人形劇を開催した。  
出 演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと  
おはなし会 6 回、人形劇 1 回
- ②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2 回）  
出 演：職員、おはなしポップ

(4) 作家とのワークショップの実施

- ・開催日：令和元年7月21日（日）
- ・場 所：大阪府立中央図書館
- ・内 容：絵本作家パク ジョンチェさんと絵本をつくろう！
- ・講 師：パク ジョンチェ（韓国の絵本作家）
- ・対 象：小学生13人
- \*主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- \*賛助企業：サントリーホールディングス株式会社、  
株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート、  
ムサシ・アイ・テクノ株式会社

(5) 図書館等での街頭紙芝居の実施

街頭紙芝居の実演を行った。

- ・事業名：むかしの紙芝居を楽しもう
- ・開催日：令和元年10月5日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館
- ・出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館
- \*主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館  
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- \*協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

(6) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向けイベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・開催日：令和元年9月21日（土）
- ・定 員：240人（申込者：448人 約1.8倍）
- \*協 賛：大阪高速鉄道株式会社、阪急阪神不動産株式会社、  
株式会社ベネッセコーポレーション
- \*協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
- \*子どもゆめ基金助成事業

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回 数：3回（自主研修・打ち合わせ研修）
- ・対 象：令和元年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの選び方・覚え方・語り方、絵本の選び方、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働す

ることによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配布等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：19名
- ・活動回数：9回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1回）、大阪府立中央図書館（5回）、吹田市立山田駅前図書館（2回）、児童養護施設（1回）

②人形劇サークルばれっと

- ・登録者数：4名
- ・活動回数：2回（おはなしモノレール、大阪府立中央図書館）

## II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

### ○創作童話・絵本の募集コンクール

「第36回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話2,044点（前年2,359点） 絵本358点（429点）  
計2,402点（2,788点）

- ・童話予備審査：令和元年11月8日（金）～11日（月）
- ・絵本予備審査：令和元年12月7日（土）
- ・本審査：令和元年12月6日（金）、7日（土）
- ・表彰式：新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ・入賞作品展示：令和元年1月7日（火）～3月1日（日）  
大阪府立中央図書館

\*協賛：日産自動車株式会社

## III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

### 1. 「マンガのひみつ大冒険！ おすすめマンガがいっぱい！！」の普及

子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通じた読書の楽しさや広がりや、検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトの普及を図った。

### 2. 「ほんナビきっず」の更新・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通システムズアプリケーション&サポートとともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。

新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：1,616冊

### 3. 「ドキドキ絵本づくり for Kids」の更新・普及

平成25年度にウェブサイト上で、絵本について学ぶことができ、実際に作ってみることができるコンテンツを「ドキドキ絵本づくり for Kids」として開発したが、今年度はちらしの配布、ワークショップ等を通して普及を行った。

#### 4. 「本の海大冒険」の更新・普及

ウェブサイト上で、子どもがクイズをしながらお気に入りの本を探すことのできる読書活動支援ソフト「本の海大冒険」に図書データの追加更新と普及に努めた。

\*協 力：株式会社ジャスティス

### IV 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会の開催、海外への日本の児童文学の情報提供や子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行った。

#### 1. 国際講演会（再掲）

国際講演会「韓国の絵本作家パク ジョンチェの絵本を語る」の実施

- ・開催日：令和元年7月20日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館 大会議室

#### 2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

#### 3. 国際アンデルセン賞の国際選考委員

当財団理事で日本国際児童図書評議会（JBBY）理事の土居総括専門員が、国際児童図書評議会（IBBY：本部スイス）が行う2020年国際アンデルセン賞の選考委員に就任したことに伴う業務を行った。

「国際アンデルセン賞」は、2年に一度、子どもの本の世界に貢献した画家及び作家を対象に贈られる賞で、受賞者を決定する選考委員会は、アルゼンチン、エジプト、オーストラリア、カナダ、ギリシャ、スウェーデン、スロベニア、フランス、ロシア、日本の10人で構成されている。

- ・選考委員会への参加

令和2年1月13日（月）～16日（木） ドイツ・ミュンヘン

#### 4. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」（英文レポート）を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ①フィンランド児童文学研究所
- ②ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ③グリム博物館（ドイツ）
- ④スウェーデン児童文学研究所



- ⑤ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑥ Seven Stories (英国・子どもの本センター)
- ⑦ 浙江師範大学 国際児童文学館 (中国) 等

## V 国際児童文学研究賞（国際グリム賞）事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。令和元年度は第17回授賞式と受賞者の講演会を行った。

- ・ 日 時：令和元年11月9日（土）14時～16時
- ・ 場 所：国民會館 武藤記念ホール
- ・ 演 題：「イギリス児童文学史再構築論を通して、日本児童文学を再考する」
- ・ 受賞者：三宅 興子 教授（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）
- ・ 参加者：176人
- \* 主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団  
           一般財団法人 金蘭会  
           大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

## VI 大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第3次大阪府子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、「子ども読書活動支援講習会 講座『すべての子どもに本を』」の講師を務めた（令和元年10月1日、大阪府立大学 I-site なんばカンファレンスルーム）。

## VII 研究及び出版等の企画事業

### 1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「研究紀要」で発表するほか、当財団のホームページに登載するなど広く普及し活用を図った。

- (1) 「大正期における児童出版文化史の研究－実業之日本社の果たした役割」  
     実業之日本社の児童出版文化史についての調査研究を外部研究者とともに行った。
  - ・ 研究会（3回 令和元年5月4日、9月16日、12月22日）
  - ・ 『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第33号（5本）
  - \* 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）  
     （研究代表者：土居安子、平成29～令和元年度）
- (2) 「近現代日本の社会運動組織による「スクリーンのメディア」活用の歴史・地域的展開」  
     昭和期のスライド文化についての資料の整理や、調査研究を外部研究者とともに行った。
  - \* 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）  
     （研究代表者：鷺谷 花、平成30～令和2年度）

## 2. 出版企画・展示企画

### (1) 「第35回 日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品『くじらすくい』（水風紅美子/作 たなか やすひろ/絵）
  - ・絵本大賞受賞作品『ぴのちゃんとさむさむねこ』（松丘コウ/作）
- B L 出版（株）と提携 令和元年12月刊行

### (2) 博物館、文学館等における展示企画

- ・タイトル：「魅せます！紙芝居展」
- ・開催日時：令和元年11月15日（金）～12月28日（土）
- ・場 所：大阪府立中央図書館 展示コーナー
- ・内 容：紙芝居の歴史を伝える資料の展示
- ・対 象：大人と子ども
- \*主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
- \*協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

## 3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第33号の発行

公募論文	3本	
共同研究メンバーによる論文	3本	
財団特別専門員による雑誌細目	1本	
科学研究費補助金 研究活動報告	1本	
第17回国際グリム賞受賞記念講演	1本	計9本掲載

## 4. 報告集の発行

- ・『2018年度連続講座報告集 幼い子どもの文学を考える（講師：三宅 興子）』
- ・『2019年度国際交流事業報告集 国際講演会：韓国の絵本作家パク ジョンチェの絵本を語る／子ども向けワークショップ：パク ジョンチェさんと絵本をつくろう！』
- ・『2019年度講演会報告集 紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える』

## 5. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は6名。上記1の共同研究等への協力を得た。

## VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

## IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

### 1. 雑誌『少女倶楽部』等のデジタル化

大阪府立中央図書館国際児童文学館所蔵の明治・大正・昭和初期の子ども向け雑誌の保存のためのデジタル化を行った(6誌 257点)。また、その内容細目のデータ化を行い、データをメディア芸術データベースへ提供した(23,320件)。

\*文化庁文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

### 2. 情報発信事業

#### (1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきつず」の管理・運営
- ③ 「子どもの本 いま・むかし」「本の海大冒険」「日本の子どもの本100選」「ドキドキ絵本づくり for Kids」「マンガのひみつ大冒険! おすすめマンガがいっぱい!!」の管理・運営
- ④ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

#### (2) メールマガジンの発行

毎月1回(20日頃)発行。

登録会員数: 3,320人 (令和2年3月21日現在)

#### (3) ツイッターでの発信

財団業務日に毎日1回以上発信。

### 3. 広報活動

#### (1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

#### (2) レポートの発行

財団の1年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No.9」を発行した。 年1回

### 4. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

令和元年度実績 180件 3,366,204円

## [ 収益事業の部 ]

---

### I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

#### ○出版企画等

##### (1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業 120 周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委 託 元：株式会社 博文館新社

##### (2) 出版社等による図書出版にかかる企画協力

###### ① 図書館司書、学校図書館司書、読書活動ボランティアなどの方々を読者対象とした、幼年向けの子どもの本のブックリストを編集した。

『ひとりではよめたよ！ 幼年文学おすすめブックガイド200』

株式会社 評論社 令和元年6月発行

###### ② 「コープのえほんでスマイル」絵本選定、ガイドブック原稿作成

委 託 元：大阪いずみ市民生活協同組合

##### (3) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託

「進研ゼミ電子図書館 まなびライブラリー」掲載図書の選定等を行った。

委 託 元：株式会社 ベネッセコーポレーション

### II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

#### 1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」等を販売した。

講演会等報告集 589 冊

研究紀要 34 冊

#### 2. 著作権管理に関する事業

「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

### III 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 2,780 冊 雑誌 3,083 冊 その他資料 1,347 点 計 7,210 点

---

○

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

令和2年6月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団